

第4回 The 4th Annual Meeting of Japanese Association on Sarcopenia and Frailty

日本サルコペニア・ フレイル学会大会

スポンサーセッション

2017

10/15

SUN

13:30~14:30

座長

名古屋大学大学院医学系研究科
地域在宅医療学・老年科学講座(老年内科) 教授

葛谷 雅文 先生

演題

フレイルと
人参養栄湯

-健康長寿に向けて-

演者

鹿児島大学大学院 心身内科学分野 教授

乾 明夫 先生

会場

同志社大学
今出川校地 寒梅館

第2会場(クローバーホール)

住所:京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103



フレイルと 人参養栄湯

-健康長寿に向けて-

演者

乾 明夫 先生

鹿児島大学大学院
心身内科学分野 教授

高齢化の進む我が国において、予防医学の立場から注目されているのが、サルコペニアを基礎としたフレイル(frailty)である。サルコペニア(sarcopenia)は骨格筋萎縮をさし、加齢に伴うGH-IGF1系や性ホルモンの低下を背景に、急速に筋肉量の減少を生じやすい。フレイルは漢方で言う未病病態であり、フレイルを予防、加療することによる健康寿命の延長が愁眉の課題になっている。

フレイルは補剤の良い適応であり、多成分系を特徴とする漢方は、多様な身体疾患や食欲不振・不安・抑うつ・認知など、心身両面の異常を示すフレイルの治療に威力を発揮するものと期待される。人参養栄湯は最強の補剤とも称され、がんの緩和医療などに広く応用されてきた。人参養栄湯は多発性骨髄腫や肝がん患者の疲労を軽減し、貧血や血小板低下、肝機能を改善させると報告されている。また食欲を促進し、サルコペニアを軽減すると考えられる。高齢者においては免疫機能の強化、感染の抑制など、在宅医療への応用やフレイルの予防・改善効果が期待される。

人参養栄湯の作用には、人参サポニンであるギンセノシドの報告が数多くなされている。ギンセノシドは疲労、抑うつを軽減し、末梢では骨密度の増加、動脈硬化巣(アテロームプラーク)の減少、認知機能や老化徴候の改善、前立腺肥大の抑制など、多彩な作用が報告されている。人参以外にも、白朮(アトラクチレノリドⅢ)や遠志(テヌイゲニン)によるエネルギー代謝改善・神経保護作用や認知・情動(抑うつ)への好影響が報告されている。黄耆(アストラガロシド)は高分子型アディポネクチン(活性型)を増加させ、インスリン感受性を亢進させる。五味子(シザンドリン)は骨格筋代謝の重要因子PGC-1 α を介して疲労を改善し、運動能力を増大させる。陳皮(ヘスペリジン・ナリルチン)は神経保護作用を有し、老化に伴う脱ミエリン化や認知機能を改善する。陳皮、茯苓(パキマ酸)、甘草や人参由来成分はグレリンシグナリングを改善し、食欲促進・サルコペニア改善など人参養栄湯の作用機構の一翼を担うものと思われる。また人参養栄湯構成生薬は、骨髄の造血系や間葉系幹細胞の増殖を促進し、臓器組織の修復再生に関わるものと考えられる。

本講演では、健康長寿に及ぼす人参養栄湯の作用とそのメカニズムを、エビデンスをもとにまたアンチエイジングの立場から述べてみたい。

■ご略歴

1978年 3月	神戸大学医学部卒業
1978年 6月	神戸大学医学部附属病院医員(研修医)に任用
1984年 7月	神戸大学医学部助手に任用
1997年 12月	神戸大学医学部附属病院講師に任用
2000年 1月	神戸大学医学部助教授に任用
2001年 4月	神戸大学大学院医学系研究科 応用分子講座 消化器代謝病学分野(旧二内科)助教授に任用
2004年 10月	神戸大学病院 糖尿病代謝内科診療科長に任用
2005年 1月	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 社会・行動医学講座 行動医学分野(現心身内科学分野)教授 及び鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター 心身医療科診療科長に任用
2009年 4月	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻長に任用
2012年 7月	鹿児島大学病院 漢方診療センター長に任用 現在に至る